

北京の春に力の回答

首相「動乱」に学生「ウオー」

「軍隊がやって来る！」

【北京支局二十日】「兵隊がやって来る！」。叫びながら学生たちがどっと走り出した。十九日深夜の北京市



軍隊のトラックの上に乗って旗を振る学生たち。天安門広場近くで、NHKテレビから

と腐敗の追放を叫んで一週間で過ぎた百万人を超す学生の熱意は二十日、当局の「鉄の意志」とのぎりぎりの対決を迎えた。

二十日午前零時すぎから、全国テレビの演説に立った李鵬首相は「現場は無政府状態に陥っている。混乱を放置することはできない。我々の目標は社会主義を建設することである」と。淡々と、しかし決して妥協の余地のない口調



国営放送テレビで演説する李鵬首相。NHKテレビから

らは、一瞬、「なぜだ」と表情を硬くし、中には涙ぐむ学生も。十九日夜から、天安門広場には「軍隊が出てくる」「趙紫陽総書記が辞任したらいい」など、学生たちにとって希望をくじかれるウワサが流れていた。世界が注目する中、民主化のうねりに燃えてきた天安門広場は、一瞬暗闇(やみ)に沈黙した。

「体制側に危機感」識者

学生の民主化要求デモに、事実上の戒厳態勢で応えた中国共産党と政府。「力の対決」の結果、中国はどうなるのか。学者らに聞いた。

中嶋徳雄・東京外国語大学教授(現代中国学) 事態はかなり深刻。一時的に学生を押しさえつけたとしても、裏面に

出ることには間違いない。この措置は李鵬首相だけでなく、鄧小平党中央軍事委主席も了解したということ。民主化を

求める層が学生、市民、マスコミだけでなく、中国共産党など体制側にも出てきたことに危機感を抱いたためだ

有毒トリクロロエチレン

基準の一千万倍検出

君津・東芝コ社

昨年八月、千葉県君津市内箕輪地区の地下水が発がん性のある有機塩素系溶剤「トリクロロエチレン」で汚染された問題で、同市公害対策委員会(茂田和毅委員長)は十九日今年三四月に実施した地下水のボーリング調査の結果を公表した。それによると、汚染の原因とされた東芝コンポ

ーネット社(本社・横浜市、高橋健二社長)の君津工場内の観測井戸で採取の地下水から三五二〇〇ppmという国の環境基準(〇・〇三ppm)の一千万倍という高濃度のトリクロロエチレンが検出された。原液に近い濃度。

同市環境部は、一県衛生研究所の病理解剖の結果、地下水の粘土層にトリクロロエチレンの廃液が沈殿していたため、こんな高濃度となったの

土口書買入
神源喜堂
03(291)5082

広場には二十日未明、学生約五万人が盛り込み、広場のスピーカーから流れる李鵬首相の重要演説に午前一時半まで耳を傾けていた。しかし、放送が終わると学生たちは次の軍出動の通告を待つかのよう

今回のボーリング調査は三月十一日から三十一日までの間に、同市内八カ所で行われた。うち国の環境基準を超えたのは異常高濃度となった工場内を含めて三カ所。工場敷地内以外の二カ所はいずれも